



アメリカ・カナダ大学連合  
日本研究センター

申込先



お問い合わせ：events@iucjapan.org

第21回レクチャーシリーズ

# 水俣病事件と日本の戦後民主主義



水俣は、戦後日本の民主主義を視るレンズである。民主主義の基礎インフラは、1947年の憲法によって日本国民に与えられたが、それは市民の思想と行動によってのみ生命が吹き込まれ、意味をもつ。水俣での水銀汚染をめぐる幾重もの応答もそのひとつであり、ゆえに戦後民主主義をめぐる苦闘を描くよい助けになる。

水俣はいくつものことを教えてくれる。権力と政策は、政治家や官僚の相対的な強さだけに左右されるものではないこと、戦後日本の歴史は「高度成長の奇跡」だけではないこと、そして戦後日本の政治史は、社会的文脈を踏まえてはじめて理解されるということだ。

市民によって定義・実践され、水俣病への反応に具現化された「戦後民主主義」は、公式な法的、制度的インフラがあるにもかかわらず、極めて場当たりのなものにとどまっている。つまり、「戦後民主主義」は創造的で市民が様々なツールを駆使するものにもなりうるが、実践によって繰り返し定義、再定義をしていくことに常に左右される不安定なものでもあるのだ。水俣病の遺したものは、拡大された多元主義のための手順や制度ではなく、可能性という遺産である。

## ティモシー・ジョージ

ロードアイランド大学歴史学科名誉教授。1985年にIUCを卒業。1996年にハーバード大学にて博士号取得。日本近現代史・環境史が専門で、『Minamata: Pollution and the Struggle for Democracy in Postwar Japan』、『Japan since 1945: From Postwar to Post-Bubble』(共同編集)、『Japanese Constitutional Revision and Civic Activism』(共同編集)、『Minamata Disease』(原田正純『水俣病』の共同英訳・編)、『Niigata Minamata Disease』(齊藤恒『新潟水俣病』の共同英訳・編)、『Politics and Power in 20th Century Japan: The Reminiscences of Miyazawa Kiichi』(御厨貴・中村隆英編『宮沢喜一回顧録』の共同英訳・編)を上梓。



時間：2025年4月11日 (金)  
15:15~16:45



会場：パシフィコ横浜  
横浜国際協力センター6階  
GALERIO



使用言語：日本語  
(通訳なし)



申込期限：4月1日  
(定員100名先着順)



主催：IUC  
アメリカ・カナダ大学連合  
日本研究センター

本イベントは、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 日本財団フェローシッププログラムの一環として開催されます。